

第 5 代学長 Fr. Frank Scott Howell 先生を偲んで

近 藤 佐智子

ハウエル先生は入院をなさる直前まで学長としての校務、秦野と四ツ谷での授業、課外活動の指導、秦野教会でのミサなど普段のお仕事を力の限り果たされ、入院一週間後の 2012 年 7 月 18 日に 70 歳の生涯を終え天の神様のもとに召されました。イグナチオ教会で行われた葬儀ミサ・告別式や短期大学部での追悼の集いへの参列者が実に多様な方面の方々であったことから、ハウエル先生の教育活動や奉仕活動が多岐に渡っていたこと、多くの人々に慕われていたことを伺い知ることができます。私個人にとっては、まさに人生の恩師であり、35 年間の先生との関わりは私の宝となりました。短期大学部 40 周年にあたり、ここにハウエル先生との思い出を綴りたいと思います。

ハウエル先生と出会ったのは 1977 年 4 月、私が上智大学に入学し ESS (English Speaking Society) に入部した時のことでした。当時 ESS のアドバイザーをなさっていた先生は、日本にディベートを紹介するまさに先駆的指導者¹として全国で活躍されると同時に私達上智 ESS の顧問として日々の活動に深く関わってくださいました。私は ESS の Debate Section に所属していましたので、日々の活動や試合を通して直接ディベートを伝授していただきました。先生は週末に他大学と行う試合の審査を頻繁に引き受けてくださいましたが、特に毎年開催されるディベートの全国大会である上智 ESS 主催の Sophia Invitational Debating Tournament では、数十人の審査員のリーダーとして活躍なさいました。

また、先生は日米交換ディベートの発展にも大きく寄与されました。私自身もその制度の恩恵に預かり、米国の 20 の大学で試合をし、ディベーターや先生達と交流するという貴重な体験をさせていただきました。ESS の後輩が先生の遺品を整理していて発見した日米交換ディベートの歴史のメモによると、1967 年にニッセル神父様が始められたハワイ大学との交換からスタートしたものを受け継ぎ、後に米国本土との交流へと発展させたと記されています²。米国へ渡ったディベーターの名前が年代ごとに出ており、そこには“Sixth Tour

1 The English Journal, March 1979 (株式会社アルク発行) は表紙にハウエル先生のお顔を掲載し、「スピーチに強くなるには」と題した特集を組んだ。その中で“Wake Up Audience First”というタイトルで日米の Public Speaking 教育の違いについてハウエル先生へのインタビュー記事が掲載されている。

2 日本での英語ディベートの歴史と異文化間教育への意義について、ハウエル先生が『ソフィア』122 号 1982 年に投稿している。

1980, February and March Debaters: Sachiko Kawanishi, Sophia University (now a professor at Sophia University Junior College Division), and Keiko Takahashi, Aoyama Gakuin University.”³と記されており、私の名前の補足説明として「上智大学短期大学部」と書き込んでいるのを見ると、ハウエル先生がこのメモを2012年に入って亡くなる直前に更新されたことが分かります。3ページに渡るこのメモの最後には、“Fourth Tokyo Conference on Argumentation at Sophia University Junior College Division, Hadano, Kanagawa, August 10-12, 2012.”とも記されています。先生はこのArgumentation国際学会の第1回(2000年)から関わっておられ、第4回大会が秦野キャンパスで開催されることをとても楽しみにされていました。2012年8月、先生亡き後の開催となり、多くの関係者がハウエル先生のディベート教育への貢献を讃え、その死を悼みました。

ESS時代のハウエル先生はディベートでの関わりだけでなく、春と夏のESS Campにもいつも参加してくださり、まさに私達学生と寝食を共にしてスピーチ、英語劇、ディスカッションなどの活動に参加してくださいました。キャンプではentertainmentを略した「エンタテ」が取り分け楽しみな企画でしたが、先生はいつも笑顔で私達が羽目を外す様子を見守ってくださいました。先生もこの「エンタテ」に出場することもあり、様々な名シーンが思い浮かびますが、その中でも忘れることができないのは、歌は得意ではないとよくおっしゃっていたのですが、最も好きな曲としてThe Impossible Dream⁴を熱唱されたことです。この歌には神のために正義を行うこと、愛の道を歩むこと、そのためにはどんな困難も乗り越えていくという強い意志が現れていました。

ESSメンバーとこのような親密な関わりをしてくださったハウエル先生を私たちは親愛をこめて「ハウエルちゃん」と呼んでいたものでした。卒業後もESSの集まりのたびに、お招きすると必ず出席してくださり、最近ではハウエル先生の65歳のご退官記念と上智短期大学学長への就任を皆で盛大に祝ったことが思い起こされます。在学時代だけの関わりに終わらず、多くのメンバーのその後の人生に関わってくださったのです。ESS・OB会会報第1号(1992)において先生はESSの顧問という肩書きについて次のように述べられています。

“Although I have had several name cards, this title has never appeared on any of them, yet it is the one of which I am most proud!” (Howell, 1992:10)

名刺に書かれることのないESSアドバイザーの肩書きですが、最も誇れるお仕事と考えて

3 Sachiko Kawanishi は近藤佐智子の旧姓。上智短期大学が上智大学短期大学部と改称されたのは2012年4月。

4 The Impossible Dream は作曲 Mitch Leigh、作詞 Joe Darion で、セルバンテスの小説『ドン・キホーテ』をもとにしたミュージカル Man of La Mancha のテーマ曲である。

くださっていたことは、先生の熱心な関わりを目の当たりにした私達 ESS メンバーにとって実に納得のいくことです。

尊敬するハウエル先生が、人生をかけて信じているキリスト教というものはいったい何なのか？そのような関心を持つようになった私と三人の ESS の友人が先生をお願いをして授業の空き時間を利用し、週1回英語でカトリック教会の教えである「カテキズム」の勉強会をしていただくことになりました。先生は素朴なものから複雑なものまで、私たちの様々な質問にいつも丁寧に、そして論理的に答えてくださり、カトリック信仰についての理解を深めるだけでなく、信仰を持って生きる人になるよう導いてくださいました。一緒に勉強したこの四人全員が在学中と卒業後間もなくハウエル先生から洗礼を授けていただき、30数年経た今でも最も心の許せる友であり続けています。

卒業一年後である1982年5月にハウエル先生の司式で ESS の先輩である夫とクルトゥールハイム⁵で結婚式を挙げました。先生は ESS・OB 会会報第1号(1992)の中で、“Through the marriage ceremonies I perform in the KULTURHEIM I come into contact with several generations of members, ... (p.9)”と述べているように、多くの ESS カップル、そして上智の卒業生の結婚式を執り行うことによって、卒業生のその後の人生にも長く関わりを持ってくださいました。私もハウエル先生から洗礼と結婚の秘跡⁶に預かったことによって、大事なことは何でも相談できる方として頼りにしてきました。

私たち夫婦が結婚後間もなく1982年冬に夫の仕事で1年間ハワイに住むことになった時も、出発前にハウエル先生を訪ねました。先生はハワイ大学の中にある Catholic Campus Ministry である Newman Center⁷を紹介してくれました。このセンターは当時イエズス会の3人の神父によって運営されており、ミサだけでなく交流会などを通して、貴重な出会いを提供してくれました。ここで知り合った方々の中には30年たった今も親しくさせていただいている人もいます。2009年にサバティカルをハワイ大学で過ごした時も、27年ぶりに Newman Center に毎日曜日通い、それが心の大きな支えとなりましたので、ハウエル先生がこのような導きをしてくださったことを心から感謝しています。

その後も札幌への転勤から戻って来た時に、まだ幼かった子供たちを連れてカテキズム勉強会のメンバーと SJ ハウスに先生を訪ねたり、上智の大学院言語学専攻に在学中は先生の研究室を訪ねたり、上智短期大学に勤め始めてからも時々お会いして短大の様子などお話をする機会に恵まれました。当時上智短大とこれといった縁のなかった先生でしたが、いつも

5 クルトゥールハイムは上智大学四ツ谷キャンパスの SJ ハウスに隣接する聖堂。キャンパスで唯一現存する明治期の建物。

6 カトリック教会の7つの秘跡は「イエス・キリストによって制定され、教会にゆだねられた、神の恵みを実際にもたらす感覚的しるし（『カトリック教会のカテキズム要約：137』）」のことで、キリスト教入信の秘跡（洗礼・堅信・聖体）、いやしの秘跡（ゆるし・病者の塗油）、交わりと使命を育てる秘跡（叙階・結婚）に分類される。

7 Newman Center はホノルルのハワイ大学マノア校キャンパス East-West Road に1982年9月に設立された。

熱心に私が語る短大のことに耳を傾けてくださっていたのが印象的でした。

そして、遂に先生が上智短大の教壇に立つ日が訪れました。先生が初めて当学で教えたのは「キリスト教文化入門」⁸という輪講による形式の授業で、私は偶然この年にサバティカルであったコルテス先生の代役でコーディネーターを務めていました。この授業はキリスト教に関連する文化を様々な切り口で、輪講により複数の先生にお越しいただき進めるものですが、ハウエル先生に「キリスト教と科学」についての講義をお願いしたところ、「大学でこのテーマでいつか話したいと思っていたけれど、その依頼を受けたのは初めてだ。」と嬉しそうにおっしゃっていました。

その後2006年からは本学の非常勤講師として毎年勤められるようになり、Public Speaking や Debate などの授業を担当されました。そして2009年遂に本学の学長に就任されたのです。私は恩師が自分の勤め先の学長となるという不思議な縁に欢喜しました。大学時代のESSの仲間も大変喜び、ご就任当日には皆でお祝いの花を贈ったり、その後祝賀会を催したりしました。ハウエル先生は学長へのご就任を大変誇らしく思っていたらっしゃるご様子で、祝賀会には短大の学校案内を多数持参して、「娘がいる人は是非上智短大へ！」と誘っていたらっしゃいました。

ハウエル先生はいつも上智短大を誇りに思い、その気持ちがあるからこそ学生からも深く慕われていました。先生は卒業式のスピーチなどで、「ここは一人の学生が喜べば十人の学生と一緒に喜び、一人の学生が悲しめば十人の学生と一緒に悲しむような大学である」とおっしゃり、「Women for others, with others」の精神を持っている学生を誇りにしてくださっていました。2009年にハウエル先生のこれまでの功績と短大学長としての様子などが綴られた記事がThe Japan Timesに掲載されましたが、その記事の中で本学の学生の学業への取り組み方について次のようにおっしゃったと書かれています。

“In Yotsuya, everyone fills up the back seats first, but in Hadano, the opposite occurs. The women arriving first always fill up the front seats.”

(The Japan Times, September 12, 2009)

多くの大学では教室の前よりも後ろの席から埋まっていくものですが、上智短大は学生が好んで一番前の席から座るということで、学生の学業に対する熱意がそこに見られることを私にもよく語ってくれました。

上智短大キャンパスには「ソフィア」という名の白い猫が住んでおり、学生や教職員から可愛がられています。2012年の春休み中のことでした。事務センター長とスタッフが箱に乗せ

8 「キリスト教文化入門」は複数講師による輪講形式で、聖書、キリスト教の歴史、芸術、上智大学の起源、イエズス会の教育などについて学ぶ科目である。

たソフィアを大事そうにかかえてきました。話を聞いてみるとソフィアがふらふらになりながら健康管理室の看護師さんの前に現れたとのこと。ただごとではないと判断した看護師さんがセンター長に、そしてセンター長がハウエル学長に相談したところ、学長は自分がお金を払うのでソフィアをすぐに動物病院に連れていくようにとの指示が出たとのことでした。ところが皆でソフィアを車に乗せようとした瞬間、箱から飛び出してさっきまでの瀕死の様子とは違って歩いて逃げていきました。その直後にハウエル先生とお話をしたら、「学生はソフィアが病気と知ったら、きっと病院に連れていくことを望むと思うから病院へ行くように指示した。」とおっしゃり、結局は大丈夫そうだったことを伝えると、いつものユーモアで「誰でも病院に行くのはいやがるものだ。」とおっしゃり二人で大笑いをしたことを覚えています。春休み中でキャンパスに学生がいない間でも、常に学生の気持ちになって行動してくださったのです。

ハウエル先生はどんなに忙しい時でも、学生、大学院生、卒業生、教員、職員の英文校閲を“*No problem.*”とおっしゃって引き受けてくださることも有名でした。私も何本もの論文を校閲していただきましたが、長年博士論文に取り組んでいる間、「論文が完成したらいつでも英語を見てあげるから。」と励まし続けてくださり、完成の折には450頁の論文を丁寧に校閲してくださいました。博士論文の *acknowledgement* (謝辞) にお世話になった方々に感謝の意を評しましたが、ハウエル先生に対して私は次のように書きました。

I owe my sincere gratitude to Fr. Frank Scott Howell, who has been my life mentor for more than 30 years and is currently my boss as the president of Sophia Junior College, for giving me continuous encouragement to complete my dissertation. He was often saying in his humorous way, “Finish your dissertation before you see your grandchild!” Well, I could somehow finish it barely in time. He also kindly proofread the last draft of the entire dissertation.

(Kondo, 2011:iii)

「孫が生まれる前に博士論文を書き終えるように。」とユーモラスにお話になり、ただ英語の校閲をしてくださるという行為だけではなく、ご自身からそれを申し出てくださいることによって、「頑張って書きなさい。」という励ましの言葉をかけてくださり期待をしてくさっていたことを感じます。

ハウエル先生の上智大学理工学部化学科（現在の物質生命理工学科）の教授としてのご貢献はもちろん忘れることはできません。『ソフィア』2011年240号の「特集・理工学部創設50周年」における「上智大学理工学部—過去・現在そして未来へ—」というシンポジウム報告の中で早下隆士教授は次のように述べています。「理工学部を代表する外国人研究者としては、イエズス会から来られたフランク・スコット・ハウエル先生がおられました。ハウエル先生は英語教育、特に理工学部の英語教育に多大な影響をあたえられました」（ソフィ

ア 2011 年 240 号：407)。その貢献は理工学部にとどまらず、司祭としての奉仕、ESS サークルの指導⁹やディベート教育の普及、そして上智短期大学学長としてのリーダーシップや教育と非常に幅広いものであり、まさに寝食を忘れて他者のために尽くされました。

このように振り返ってみると、ハウエル先生は私の人生を何と恵み豊かなものとしてくださったことでしょう。先生は生きる上での最も大切なことを教えてくださいました。

「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。(マタイの福音書：22 章 36 - 39)

神を愛し、隣人を愛し、関わる全ての人々に尽くされた先生とご一緒に過ごすことのできた多くの恵みに満ちた時間を神に感謝し、先生が今も見守ってくださっていることを信じ、先生が蒔いてくださった種を少しでも育てることができるようこれから人生を歩んでいきたいと思えます。

参考資料

Howell, F. S. (1991). 『ESS・OB 会報第 1 号』, 9-10.

Howell, F. S. (revised in 2012) Personal notes (日米交換ディベートの歴史)

「上智大学理工学部一過去・現在そして未来へー」『ソフィア』第 6 0 巻第 4 号, 12-48.

上智大学短期大学部通信第 81 号 2012 年 11 月発行

『カトリック教会のカテキズム 要約 (コンペンディウム)』2010 年カトリック中央協議会

Kondo, S. (2011) Development of Interactional Competence in a Study Abroad Context:

Assessments as Social Actions. 上智大学外国語学研究科言語学専攻博士論文

Newman Center 公式ホームページ <http://www.newmanhawaii.com/>

『聖書』新改訳. 日本聖書刊行会

スコット・ハウエル (1982) 「英語ディベート」『ソフィア』第 3 1 巻第 2 号, 178-188.

The English Journal, March 1979. (株式会社アルク発行)

The Japan Times, September 12, 2009. “College head finds magic where he can.”

9 ハウエル先生は亡くなられるその日まで 33 年間上智 ESS の正式の顧問を務められた。ESS・OB 会報第 1 号 (1991) によると、先生の上智 ESS との関わりはフォーブス神父様とニッセル神父様の導きで 1972 年に始まり、前顧問であるフォーブス神父様が亡くなられた 1979 年に実質上のアドバイザーから正式の顧問となられた。また、近年では本学 SEA のスピーチなどのご指導も熱心になさっていた。